

1182IC

各 位

2025 年 8 月 21 日

SMK 株式会社

太陽生命保険株式会社

株式会社太陽生命少子高齢社会研究所

宇陀市

宇陀市立病院

製品情報

**SMK・太陽生命・太陽生命少子高齢社会研究所、
宇陀市・宇陀市立病院と認知症予防推進に関する包括連携協定を締結**

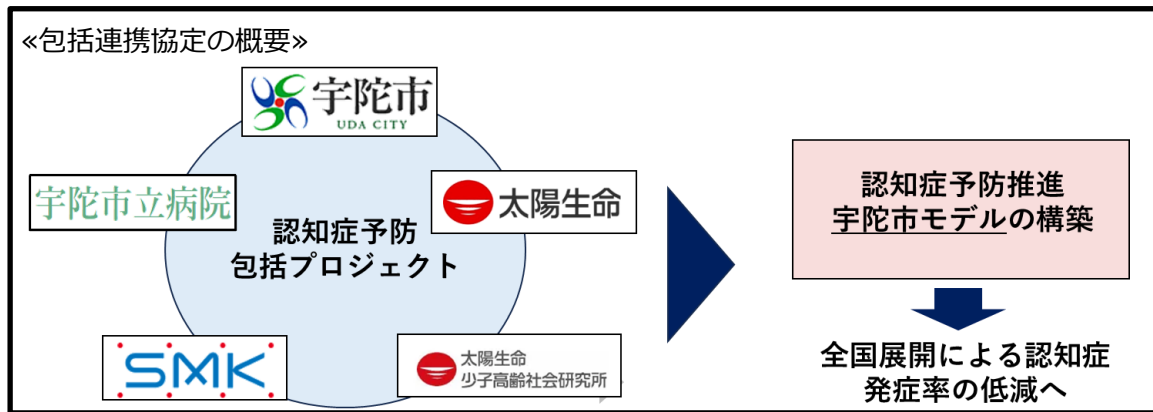
SMK 株式会社（代表取締役社長：池田 靖光、以下「SMK」）、太陽生命保険株式会社（代表取締役社長：田村泰朗、以下「太陽生命」）、株式会社太陽生命少子高齢社会研究所（代表取締役社長：安田 誠利、以下「太陽生命少子高齢社会研究所」）は、宇陀市（市長：金剛一智）および、宇陀市立病院（院長：赤羽たけみ）と、認知症予防推進に関する包括連携協定を締結しましたのでお知らせいたします。

超高齢社会を迎えた日本では、2030 年には 65 歳以上の約 3 人に 1 人が認知症または MCI（軽度認知障害）になると推計されるなど、認知症への対応が社会的課題となっています。その対応の一つとして、認知症の前段階である MCI の段階で適切な予防や治療を行うことが、発症を防いだり遅らせたりする上で重要とされています。

今般、SMK、太陽生命、太陽生命少子高齢社会研究所、宇陀市、宇陀市立病院は包括連携協定を締結し、協定に基づき、『認知症予防包括プロジェクト』（以下、「本プロジェクト」）を実施します。各社・団体の知見を結集し、認知症予防の啓発から自助の推進までの事業を地域住民に提供することで、認知症予防という社会的課題に取り組みます。

なお、SMK は、国立循環器病研究センターとともに、太陽生命少子高齢社会研究所が推進する、厚生労働省 令和 4 年度第 2 次補正予算「中小企業イノベーション創出推進事業（SBIR）」に採択された補助事業において、音声データを活用した MCI スクリーニングツールの開発および社会実装に取り組んでいます。同取り組みにおいて、本プロジェクトは社会実装に向けた実証事業として位置付けられています。

今後は、宇陀市での本プロジェクトを、認知症予防推進のモデルケースとして全国へ展開し、認知症発症率の低減を目指すとともに、本協定の提携団体を拡大し、認知症予防推進モデルの拡充を進めてまいります。



[プレスリリースに関するお問い合わせはこちら](#)

（別紙）認知症予防に向けた各社・団体の取り組み

SMK は、Canary Speech Inc.（CEO：ヘンリー・オコネル）の技術を活用し、国立研究開発法人国立循環器病研究センター（理事長：大津欣也）と共同で開発した「音声によるあたまの健康度と心身のコンディション傾向を可視化するウェルビーイングアプリ」を販売しています。本アプリは、スマートフォン、PC、電話などを通じて取得した 40 秒の音声をもとに、あたまの健康度を簡易に評価でき毎日の健康維持をサポートします。あたまの健康度や心身のコンディションの乱れを早期に捉え、適切に対処することで、高齢者のウェルビーイング向上や社会全体の QOL（生活の質）の向上につながることが期待されます。

太陽生命 は、2016 年 3 月に、健康状態に不安のある方でもお申し込みいただける、認知症による所定の状態を保障する保険『ひまわり認知症治療保険』を発売しました。さらに、2018 年 10 月には、『ひまわり認知症予防保険』を発売しました。同保険は、「認知症診断保険金」を早期の治療にご活用いただけることに加えて、ご契約の 1 年後から 2 年ごとにお受け取りいただける「予防給付金」を活用して様々な認知症予防サービスをご利用いただくことができます。加えて、2024 年 12 月には、軽度認知障害保険金特則を付加することで、軽度認知障害（MCI）に該当した場合も保障できるようになり、お客様のニーズに一層お応えできるようになりました。

太陽生命少子高齢社会研究所 は、太陽生命の 100% 子会社であり、超高齢社会における社会的課題の解決に貢献することを目的に、認知症に関する調査レポートの継続的な公表、オレンジノベーション・プロジェクト（経済産業省主催）への参画、その他様々な共同研究・実証事業等を行っています。国立循環器病研究センターと SMK が共同で開発している音声による革新的な分析技術に着目し、2023 年度より技術の開発協力および社会実装の推進に取り組んでおり、本プロジェクトでは、同技術の活用を含め関連各者と協力することで、宇陀市における認知症予防モデル構築への貢献を図ります。

宇陀市では、認知症の治療や介護についての相談や連携を推進する、地域包括ケアシステムの拠点として、平成 27 年 4 月より医療介護あんしんセンターを開設しております。医療介護あんしんセンターでは、「認知症不安ゼロのまち」の実現に向けて、「宇陀市オレンジプロジェクト」を推進しています。その内容は、認知症に対する正しい理解を広めるために「知ってあんしん認知症予防とケアのガイドブック」を市独自に作成し、認知症の方やご家族の支えとなる資料として活用しています。また地域での理解を深めるため「認知症サポーター」養成講座の開催し、一般市民や民生委員、学校関係者、民間企業の従業員など幅広い層に認知症の理解と支援のスキルを広めています。令和 6 年度末時点で 2,654 名のサポーターを養成しました。その他、「認知症初期集中支援チーム」の設置、「認知症カフェ」の開設、行方不明の高齢者等を未然に防ぐための「あんしん登録制度」などの取り組みを展開しております。本プロジェクトは、MCI の可逆性にアプローチする取り組みと認識しており、さらなる認知症予防の推進に積極的に取り組んでまいります。

宇陀市立病院では、脳神経内科を標榜し、専門医を含む医師 4 名体制で診療を実施しています。近年、高齢化が進む中、多様なニーズに対応するため、令和 4 年度より「もの忘れ外来」を開設しました。「もの忘れ外来」では、脳神経内科の専門性を活かし、もの忘れ症状にお困りの患者さまに対する認知症の診断を行っています。また、認知症予防対策の一環として、本年 5 月に「今知りたい認知症のこと」と題した市民公開講座を開催しました。当講座では、当院医師、当市保健師から認知症の治療や予防についてわかりやすく講演するとともに、軽度認知障害（MCI）の最新の治療方法に係る当院での取り組みについて周知する機会となりました。

以上